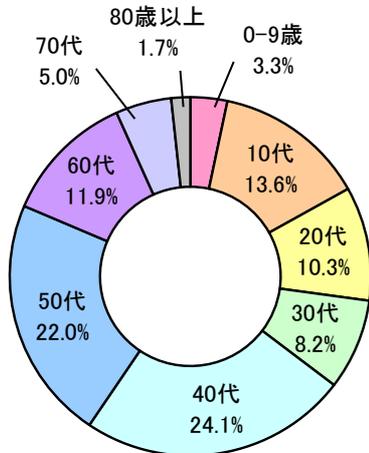


臨濟禪師1150年・白隠禪師250年遠諱記念 特別展「禅—心をかたち—」

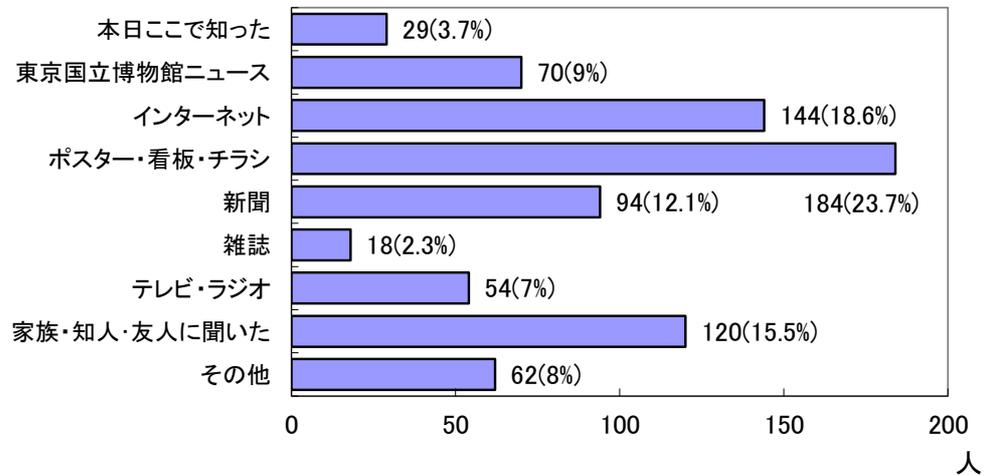
アンケート集計結果

開催期間：平成28年10月18日（火）～11月27日（日）（36日間）
 回答者数：534人（総入館者数：133,629人 アンケート回収率：0.4%）

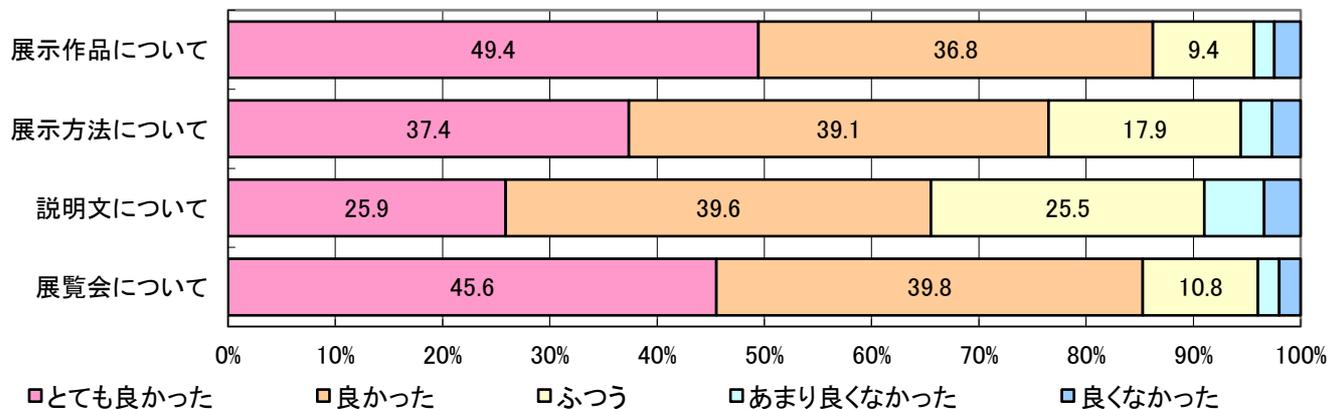
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・狩野派の障壁画、達磨図などの名品が特に良かった。
- ・一休、白隠や喫茶など禅の世界の奥深さに圧倒された。
- ・その時代の武将と宗教が密接に関係していた点が大変興味深い。
- ・音声ガイドの内容が良く、観賞理解の助けとなった。
- ・図録の内容が充実していた。

◇「あまり良くなかった」「良くなかった」

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	1.9	2.5
展示方法	2.9	2.7
説明文	5.6	3.4
展覧会	2.0	2.0

(%)

禅宗は中国から伝えられた仏教の一派です。その導入は鎌倉時代から南北朝時代にかけて臨濟【りんざい】宗を中心に行われ、それとともに新たに宋・元の美術、喫茶の風習が中国からもたらされました。江戸時代には、やはり臨濟禅の流れをくむ黄檗【おうへき】宗が、明時代末の美術とともに中国から伝わり、また臨濟宗中興の祖と称される白隠【はくいん】は教化のために自ら多数の書画を制作し、いまや禅画の先駆者として高く評価されています。このように禅は、中世以来、新たな文化への「架け橋」や「触媒【しょくばい】」として日本文化の形成に大きな役割を果たしてきました。

本展では、臨濟宗・黄檗宗の各本山が所蔵する高僧の肖像、書、仏像、絵画や工芸を中心に、禅宗美術の至宝を通じて禅の歴史と文化を、国宝22件、重要文化財102件を含む計240件を展示し、13万人を超える来館者を迎えました。

アンケートの結果、展覧会に対して85%の方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただきました。一方で、「展覧会の会期が短い」、「展示替えが多く、お目当ての作品を観ることが出来なかった」などの意見も寄せられました。

今後も、来館者からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。